



「おおほりまつり30周年記念手拭い」

画 西島 伊三雄 氏



福岡の歴史と文化をつなぐ

# 福岡城

こうろかん

## 鴻臚館まつり

# おおほり まつり



コロナ禍の今、

まつりの継承の火を！

実行委員長 浅野 節夫

昭和五十四年に始まった「おおほりまつり」は、平成を経て令和の新时代を迎えることとなりました。

二〇一八年には、名称を「福岡城・鴻臚館まつり」と改め、心新たにスタートしたところでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく二〇二〇年の開催を中止したところでした。まつりの長い歴史の中で初めての事で誠に残念な思いでした。

当まつりは、地域の結び付きが希薄になりがちな、福岡都市部の交流を創出する催しであり、六校区の地域の方々や関係各位のご支援、ご協力を頂きながら回を重ね発展してまいりました。

その結果、地域交流と活性や、子どもたちの心身共に健やかな成長に大いに貢献してまいりました。

しかしながら、コロナの波は終息せず、福岡県に対しても「緊急事態宣言」が出される事態に至り、止むなく本年度も開催を断念いたしました。

伝統の火を絶やさない為には、来年こそ、これまでどおりの賑やかなまつりを開催したいと念願しています。

あいさつ

中央区長 吉村 隆一

このたび、本誌が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

福岡城・鴻臚館まつりは、「福岡城」や「鴻臚館」といった福岡市が誇る歴史や文化を大切にし、若い世代へ代々語り継がれるべき福岡のまつりとして、地域をあげて取り組んでいただいている伝統行事であり、中央区役所が掲げる「自然、歴史、地域の魅力を活かした、にぎわいのあるまちづくり」に大きく寄与いただいています。

昨年と今年はコロナ禍の影響により、残念ながら中止となりましたが、これまでも幾多の困難を克服しながら、その時々々の社会状況や諸要請に応え、歴史文化を継承し続けておられることは誠に意義深いものがあります。中央区役所といたしましても、今後引き続きご支援させていただく所存です。

今回の発行を機に、多くの方に福岡城・鴻臚館まつりを知っていただき、福岡部のまつりとしてさらに発展していくことを祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

## はじめに

「福岡城・鴻臚館まつり」は、今から五十年前、西公園に万葉の歌碑が建てられた折に催された、地元の有志の皆さんによる「荒津まつり」から始まりました。

古代から「荒津」と呼ばれていた西公園、大濠公園、舞鶴公園に囲まれた一帯。

その一角に大陸との交流拠点として「鴻臚館」が置かれ、荒津が初めて歴史の表舞台に登場しました。

そして、徳川の時代には「福岡藩」が置かれ、活気のある城下町が形成されました。

福岡部と博多部との「双子都市」と呼ばれ発展した、現在の福岡市の骨格が出来上がったのです。

地域の方々がこのまつりを観たり、参加するなかで、私たちの誇るべき歴史に想いを致し、故郷の良さを共感し合い、語り合えるまつりにします。

また、先人たちが綿々と培ってきた豊かな歴史や文化を、次の世代に伝えていくため、地域の方々と一緒になって、子どもたちの健全育成に努めます。

今後とも「鴻臚館の宴 荒津の舞」と「黒田二十五騎武者行列」を中心に、「福岡城さくらまつり」とも連携して、華やかに開催してまいります。

皆様の大勢のご参加を、心からお待ちしています。

おほりまつり振興会

江戸時代の福岡城下古地図



## 1970年

一九六九年（昭和四十四年四月）

万葉歌碑除幕式の協賛行事で、初めて「荒津の舞」を披露  
市民やメディア等から賞賛を得て、年中行事として開催の  
要望が出た

一九七〇年（昭和四十五年）

第一回 荒津まつり（福岡市荒津文化観光振興会）

春の祭典 西公園で「荒津の舞」を披露  
夏の祭典 大濠公園で水上ステージを造り「竜頭船」を浮かべる



一九七九年（昭和五十四年八月十二〜十四日）

第一回 おおほりまつり（おおほりまつり振興会・福岡市荒津文化観光振興会）  
福岡市制九〇周年・大濠公園開園五〇周年を記念し開催される

第一部 花火大会が復活

第二部 「黒田藩陽流抱え大筒」の祝砲、「黒田二十五騎行列」

「子ども樽みこし」などが始まる

一九八〇年（昭和五十五年八月）

第二回 おおほりまつり（おおほりまつり振興会）

第二部 ヨット教室、校区対抗リレーなどを催す

第三部 荒津の舞等を大手門会館で披露



一九八二年（昭和五十七年十一月）

第四回 おおほりまつり

「ミスおおほりまつり」が誕生し、「校区芸能大会」などを催す

一九八七年（昭和六十二年五月）

黒田二十五騎行列が「博多どんたく港まつり」に参加

一九八八年（昭和六十三年九月） 第十回おおほりまつり

大濠公園改修工事により花火大会中止

会場を福岡城跡校園に変更（三部構成から二部構成に改編）

「南坊流野点茶会」始まる

一九八九年（平成元年十月）

アジア太平洋博覧会（よかとピア）「中央区の日」で荒津の舞を披露



## 1990年

一九九四年（平成六年九月） 第十六回おおほりまつり

会場を舞鶴公園西広場に変更

一九九六年（平成八年九月）

「福岡アジアマンス事業」に登録（三年間）

「アジア芸能」や「荒津の舞」を催す

一九九七年（平成九年十一月） 第十九回おおほりまつり

会場をN H K 福岡放送局ステージに変更

二〇〇〇年（平成十二年十一月）

福岡藩に継承されてきた「福岡黒田藩傳柳生新影流兵法」を披露



二〇一一年（平成二十三年三月） 第三十二回おおほりまつり

会場を舞鶴公園校園に変更

開催時期を三月に変更するが「東日本大震災」により中止

二〇一二年（平成二十四年三月） 第三十三回おおほりまつり

「福岡城さくらまつり」の開催期間に合わせて開催

会場を舞鶴公園鴻臚館広場に変更

二〇一四年（平成二十六年三月） 第三十五回おおほりまつり

N H K 大河ドラマ「軍師官兵衛」記念イベントとして実施

二〇一六年（平成二十八年三月） 第三十七回おおほりまつり

まつりの名称を「福岡城おおほりまつり」に変更

二〇一八年（平成三十年三月） 第三十九回おおほりまつり

まつりの名称を「福岡城・鴻臚館まつり」に変更

馬の早駆け、和と歴史のファッションショー開催

二〇一九年（令和元年八月）

第一部「花火大会」今年より中止

二〇二〇年（令和二年三月）

第四十一回福岡城・鴻臚館まつり

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

二〇二二年（令和三年）

現在に至る



## 1980年

## 2020年

## 2010年

## 2000年

# 「福岡城・鴻臚館まつり」の起こり

現在のまつりは、西公園の鵜来見台<sup>うぐみだい</sup>で産声をあげました。

てるもじんじゃ

空襲で焼けた西公園の光雲神社が再建されたのが昭和四十一年。

そのころから「荒津文化をたたえ、振興しようという機運」がしだいに高まり、各界のそうそうたるメンバーの参加を得て、「福岡市荒津文化観光振興会」が創設されました。

そして昭和四十四年、鵜来見台での万葉歌碑の除幕式に協賛する形で、「荒津まつり」が挙行された次第です。

振興会の当時の「設立趣意書」に、こう書かれています。

「古来荒津一帯が日本史上に果たした役割、日本文化の曙時代に残した史実を・・・県市民の多くが忘却している」

「本会は・・・諸種の事業を興味深く展開して、郷土の地の利とその意義、祖先の偉業を明らかにし、県市民に・・・誇りを抱かせ、かつ今後の文化行政に・・・理解と協力を深め・・・福岡市の観光資源の一翼たらしめることを期する」

「福岡市が先人から受け継いできた優れた文化を、内外に宣揚せしめることを本会の目的とする」 ※「:」は中略

まちづくりに取り組む、この熱く高い志は、現在の「おおほりまつり振興会」に引き継がれています。



西川鯉近先生  
(写真中央右)

故・中村旭園先生  
(写真中央左)

長い間ご指導をいただいています。

平成 24 年  
第 34 回  
「おおほりまつり」



昭和 44 年 鵜来島を望む鵜来見台



① 場所 西公園  
鵜来見台

「神さぶる  
荒津の崎に寄する波  
間燕くや妹に恋わたりなん」  
神々しい荒津の崎に寄せる  
波のように、いつも妻を恋い  
慕うのだろうか

# 黒田二十五騎 武者行列

戦国の世を戦い抜き、「福岡藩」繁栄の礎を築いた

「黒田官兵衛」と「長政」

この二人を支えて頑張ったのが、母里太兵衛や後藤又兵衛などの家臣で、特に大きな武勲をたてた重臣たちを「黒田二十四騎」と呼んで讃えています。

六代藩主「黒田継高」の時代、家臣「原種次」が二十四名の功臣を選んで彼らの略伝と「黒田二十四騎図」を作成したと伝えられています。主君「長政公」を含めて二十五騎となります。

乗馬した長政公（福岡市長）と二十四名の武将たち、少年武者、稚児たちの行列が、光雲神社をスタートして、大濠公園から鴻臚館広場の舞台まで、練り歩きます。



黒田二十四騎図（尾形探香筆）

福岡市博物館所蔵



黒田節

酒は飲めのめ 飲むならば 日の本一の この槍を  
飲みとる程に 飲むならば これぞ真の黒田武士  
(福岡県民謡)

第35回おほほりまつり

# 鴻臚館の宴 荒津の舞

朝廷の命により、命がけで荒海を渡っていった遣唐使

その一行は、大使を先頭に、副使、判官、録事、訳語、医師、陰陽師、画師、射手、船師、卜部、留学生、学問僧など、総勢五百人を超え、用いた船数は四隻編成だったそうです。先進文化を取り入れ、国づくりに生そうとした朝廷の強い意志が伝わってきます。

舞台では、無事の帰還を祈る「荒津の舞」を中村旭園(きよくえん)社中の「筑前琵琶」の調べにのせて、西川鯉近(こいちか)社中の皆様に舞っていただきます。

また、長官、遣唐使、武官、文官、防人、女官の衣裳は、「福岡女子短期大学被服研究室」の手作りで、博多織や木綿で作られ、五十年たった今も使われています。

なお、この舞台で大宰府の長官が遣唐使に「国書」を手わたす場面があります。

実はこの国書は、「孝謙天皇が遣唐使を見送る際に詠まれた歌」で、万葉集に納められています。

そらみつ大和の国は 水の上は 地行くごとく

船の上は 舟に坐ること 大神の鎮へる国ぞ

四つの船 船の舳並べ 平らけく 早渡り来て

返言奏さむ日に 相飲まむ酒ぞ この豊御酒は

四つの船 早還り来と白香著け 朕が裳の裾に鎮ひて待たむ

(訳) 船旅では神様があなたを守ってくれます。無地帰国して

復命をなさる日には、この美酒を一緒にいただきますしようね

無事を祈る天皇のお気持ちがよく伝わってきます。



鴻臚館(こうろかん)とは

「鴻臚館」は、唐や新羅の使節を接待・宿泊させる迎賓館であり、また遣唐使などが旅支度をととのえる対外公館でした。十一世紀後半に貿易拠点が多岐に移るまでは、古代日本最大の国際交流の拠点でした。



# おまつり

黒田二十五騎の紹介や荒津の舞をメ  
馬の早駆け、太鼓、高校生や小学生  
また交流の場として毎年工夫をしな



キッズジャズダンス (平成 27 年)



柳生新影流奉祝剣舞 (平成 28 年)



当仁太鼓 (平成 31 年)



中央消防団まとい太鼓 (平成 29 年)



歴史と和をモチーフとしたファッションショー  
(平成 30 年)



城西中学校 (平成 29 年)

# 舞台

時を渡り  
人をつなごう

インとして、福岡藩ゆかりの武道、  
による演技など、地域住民が集う場として、  
がら舞台を盛り上げています。



曩祖太鼓（昭和 55 年）



ツルタバレエ芸術学園（昭和 49 年）



福岡大学附属若葉高校〈旧九州女子高校〉（平成 20 年）



福岡大学附属若葉高校（平成 24 年）



中村社中（平成 17 年）



協力団体

福岡市

西川鯉近社中（荒津の舞 舞踊振付）

中村旭園社中（筑前琵琶）

光雲神社

福岡縣護国神社

鳥飼八幡宮

大濠・西公園管理事務所

㈱ 西日本新聞社

丸武産業㈱（鎧・兜）

㈱ 井筒企画（衣装）



第40回福岡城・鴻臚館まつり実行委員 参加校区 赤坂・草ヶ江・簗子・当仁・福浜・南当仁

あとがき

福岡市は自然豊かな歴史と数々の文化を継承する人間味あふれる街です。

「荒津まつり」から始まった「福岡城・鴻臚館まつり」は、地域住民の熱い思いが結集した手作りのまつりとして、五十年間脈々と受け継がれてきました。

先人たちの発案と努力と、私どもの心意気をおくみ取り頂き、今後ともご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

発刊にあたり、資料の提供や編集にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

福岡城・鴻臚館まつり

二〇二一年三月 発行

発行 おおほりまつり振興会

おおほりまつり実行委員会

福岡市中央区大手門三丁目十番七号

電話番号 ○九二く七二二く二二六八

事務局 簗子公民館

印刷

㈱ 重富印刷

# 武者行列コース・万葉歌碑の案内図

① ※4ページ掲載



草ヶ江公民館敷地内

草香江の 入江にあさる あしたづの  
あなたづたづし 友なしにして  
草香江の入り江で餌を探す葦鶴（あし  
たづ）の様子は何とも心細いものだ。  
共に語り合える友もなくて。



② 西公園  
参道入口

大濠公園松島  
にある歌碑の  
返歌

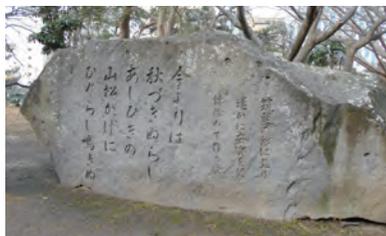
單枕 旅行く君を  
荒津まで 送りぞ来ぬる  
飽き足らねこそ  
旅立つあなたを荒津の浜ま  
で見送りに来てしまいました。  
いつまでも心残りです。



③ 大濠公園 松島

しろたへの 袖の別れを  
難みして 荒津の浜に  
やどりするかも  
あなたとこのまま離れて  
しまうのが惜しいので、荒津  
の浜で一夜の宿を取ってし  
まいました

④ 福岡城跡内



今よりは 秋づきぬらし  
あしひきの 山松かげに  
ひぐらし鳴きぬ  
今はもう秋になって  
しまつたらしい。  
山の松陰でヒグラシが  
鳴き始めた